

帰ってきたミヤマカラスアゲハ

佐用町立佐用小学校 3年生

佐用小学校3年生は、総合的な学習の時間の中で「地域に住む昆虫を調べよう」の学習をしている。理科の学習との関連もあり、児童の興味関心は非常に高い。地元にある佐用町昆虫館も訪問し、三木進先生にも来て頂いて、楽しい昆虫のお話や標本の意義なども聞かせていただき、子どもたちは生き生きと目を輝かせて活動した。また、その経験を基に楽しい虫新聞も作り上げた。



そこで、このような子どもたちの実態と地域の環境の様子、そして、小さな虫の命も大切にしてほしいという教師の願いも込めて、自分たちの地域を題材にした道徳の教材を開発できないかと考えていた。

そんな折、NHKで佐用町に住む昆虫好きの少年を題材にしたドキュメンタリー番組「ファブルたちの夏」が放送された。この番組は担任教師が考えていた題材と内容が似ていたので、この番組を基に教材の開発に取りかかった。

まず、放送内容を確認しながら作業を行った。いろいろな事実の中で、特に主人公の少年が大好きであったミヤマカラスアゲハに焦点を当てて、文章を構成した。

次に、その主人公である少年に取材を行った。ミヤマカラスアゲハに対する思いや一昨年夏に佐用町で起こった水害後の状況を聞くことができた。そこで、ミヤマカラスアゲハを通じて、小さな虫の命が尊く、そして災害を乗り越えてもなお強くたくましく生きていることに感動している少年の思いを文章化し、出来上がったのがこの作品である。

この作品を基に授業を行った。子どもたちは、主人公の心の変容をよく考えながら学習できたように思う。今後も小さな虫の命も大切に子どもたちに成長してくれることを願っている。

